

東北食農連携ネット

“FACNeT”

東北ハイテク研究会



No. 6 (2017. 7)

東北食農連携ネット“FACNeT”第6号をお届けします。

第6号では、6月15日に開催されました東北地域農林水産・食品ハイテク研究会・企画委員会で論議されました東北ハイテク研の今後の活動方向の内容についてお知らせします。

平成29年度事業計画の特徴

「『知』の集積と活用場」事業への対応

農林水産省が平成28年度に提起した新たな産学連携の仕組みである「『知』の集積と活用場」に関わる事業に如何に的確に対応していくかは、東北ハイテク研究会の今後の事業展開にとって大きな意味をもっています。この事業制度に参加して活動を展開するためには、研究機関、民間企業、生産者は、次のような対応をすることが求められます。

<産学連携協議会への参加>

平成29年6月現在、法人・団体会員数1,188、生産者・大学・研究機関の研究者475人が個人会員として参加しています。産学連携協議会への参加は、産学連携協議会のHPで受付けています。

<研究開発プラットフォームへの参加>

産学連携協議会に参加した法人・団体、個人会員は、次の7つの研究領域で自主的に組織化される研究開発プラットフォームに参加できます。①日本食・食産業のグローバル展開(9)、②健康長寿社会の実現に向けた健康増進産業の創出(17)、③農林水産業の情報産業化と生産システムの革新(12)、④新たな生物系素材産業の創出(4)、⑤次世代水産増養殖業の創出(3)、⑥世界の種苗産業における日本イニシアチブの実現(2)、⑦新たな研究領域(7)。現在、7つの研究領域で54のプラットフォームが形成されています。()内は、プラットフォームの数です。

<研究開発コンソーシアムへの参加>

研究開発プラットフォームでは、セミナーや勉強会を通じて日常的に研究課題を発掘するための活動を行い、整理された課題の中で研究参加団体を絞り込み、マッチングファンド方式(1/3の研究予算は参加者自ら負担する方式)での研究支援を基本とする「『知』の集積と活用場による研究開発モデル事業」、さらにはその他の競争的資金事業に応募して研究を実施します。

「『知』の集積と活用場」事業は、設立されてから日も浅くまだまだ広く知られていません。特に東北地域では認知度が低く、東北の研究機関を中心に組織化された研究開発プラットフォームは東北大

